<2022 年 第4回 都市環境デザインセミナー・記録>

テーマ:「川から見た大阪の10年~観光と余暇の現場から」



<日時>

2022 年 6月24日(金)18:30~20:30

<場所>

会場:都市魅力室(大阪市北区大深町3番1号グランフロント大阪(北館)) + Zoom 配信

<参加者>:38 名

会場定員:16名(JUDI会員:8名、一般:6名、学生:2名、話題提供者を含まない)

Zoom 参加: 22 名 (JUDI 会員: 5 名、一般: 12 名、学生: 5 名)

<話題提供者>

中野 弘巳 様 (御舟かもめ 船長)

<趣旨>

大阪のまちなかでは、ここ 10 年河川敷地での占有許可基準が改定され、規制緩和が進んでいます。河川敷地を民間事業者が直接占有できるようになったことなどの効果もあり、河川敷地の景色もすっかり変わってきました。日頃陸にいる私たちは、そのような賑わいの場所に出向き楽しく川を楽しむ機会が増えていますが、ひと続きの沿岸としてみると、大阪の河川からみた景観はどのように変わってきたのでしょうか。

今回は、この10年の大阪の街を、空にひらけた小さな船から見続けてきた、御舟かもめ船長、中野 弘巳さまにご登壇いただき、川からの大阪の都市環境デザインについて、おはなしを伺いたいと思います。奮ってご参加ください。

セミナー世話人 岡 絵理子

<講師紹介>

中野 弘巳 様(なかの・ひろみ)

2003 年大阪大学大学院工学研究科(都市環境デザイン)修了。NHK 入局。大阪・和歌山・東京にて教育、ドキュメンタリー番組等を制作。退職し09 年に小型遊覧船「御舟かもめ」を創業。定員12 名以下の旅客船を専業とする全国でも珍しい事業者で、上流は枚方から下流は大阪港の内港部までを遊覧。「OSAKABOTEL」や「朝ごはんクルーズ」など独自の企画を展開し年間250 日以上運航している。

川から見た大阪の10年~観光と余暇の現場から

中野 弘巳 (御舟かもめ 船長)

●御舟かもめに至るまで

大阪で小さな遊覧船をさせていただいております、『御舟かもめ』の中野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ご参加の方、関東の方もいらっしゃるようですし。私、実はNHK時代から今も和歌山の方々にもご縁をいただいてるんですけど、和歌山の方のお名前も、だいてるんですけど、和歌山の方のお名前も、ちらほら拝見しています。どうもありがとうございます。ちょっと自己紹介も含めてスライドの画面に移りたいと思います。よろしくお願いします。

何者だというところを少し丁寧めに。私、三重 県の桑名市という所で生まれまして。そこも水 郷の町で、木曽三川の河口にあるという、すご いスーパー堤防が川を囲んでいて。私が子ども の頃はちょうど長良川河口堰の建設問題がすご くホットだった町です。川辺をよくうろうろし ていましたが、まさか川に関わることになると は1ミリも思わずに大阪へ出てきまして。2000 年、4回生のときに大阪大学の鳴海先生の研究 室にお世話になりまして、その後、修士まで研 究室におりました。修士論文のときに使った図 が出てきたので、面白いなと思って貼っていま す。今、ご紹介いただきました。

これ、何が書いてあるかというと密集市街地ですね。ヘクタール当たり 200 人ぐらいの方が住んでるような混みあった町の方々が、どういうふうに景観を認識してらっしゃるかということを調べました。ちょうど 2000 年の頃ってタワーマンションがどんどん出てきていて、タワーマンションの方は足元の環境に興味がないんじゃないかみたいなことを勝手に思いまして研究をしました。

よく調べたら地元の方が多くお住まいで、例えばご隠居された方とかがタワーマンションに住んでいて、すごく地元に愛着を持ってらっしゃっていました。いわゆる木造密集の住宅地なんかですと、植木鉢が並ぶような緑の風景に愛着を持っていらっしゃったりというようなことが分かって面白かったです。これ平成7年の国勢調査を基にした図なんで、現在は多分、もっと都心部に濃い、人の集まってる所が今あるんだろうなと思うんですが。川から見てても本当にこの13年でマンションが増えました。

その後、2003年にNHKに入局をさせていただきました。マスコミを目指したのは、身の回りのことに興味がある人が増えたほうが町の居心地が良くなるのでは、町が良くなるきっかけになるのでは、というようなことを考えていたからだと思います。NHK入りまして、大阪放送局が3年、和歌山放送局が3年でした。その間に日本とトルコの共同制作ドキュメンタリー90分とか、あと面白いのは『ストレッチマン』とかやらせていただきました。

その後いろいろあって、ご縁がありまして、川で小型の遊覧船で何とか食っていくことができないかと、なりわいにできないかということで『御舟かもめ』を2009年に、13年前に立ち上げまして今に至るというのが私でございます。

こういった経歴ですので、ここでお話しさせていただくのにどんな値打ちのあるお話ができるのかというのはすごく悩みました。タイトル「川から見た大阪の10年~観光と余暇の現場から」にも入れたように、10年以上、大阪の川を川の上から見てきました。割と水辺から見てる方は多いと思うんですけれども、川の上から見

ているっていう方は少ない。今回の話でもしっかり強調したいんですけど、水辺と水上は全然違うし、そこの壁の高さっていうのはすごいものがあります。それが多分、将来の水辺や水都大阪を考える上で重要だと私は思っています。川の上から見ている、というところを意識しながら、お話をしていきます。

●遊覧船を開業するには

JUDI でのお話、実は私、初めてじゃないんです。2009年のときに私、NPOの。当時、NPOですけど『水辺のまち再生プロジェクト』というところに参加をしてまして、『もうひとつの旅クラブ』さんと一緒に川の駅『はちけんや』の運営管理に関するプロポーザルをやりまして、出席頂いている建築家の高原さんが設計された川の駅『はちけんや』の今後を語るという会で、ちょっとだけお邪魔して話をさせていただきました。

『御舟かもめ』という船。熊本の天草の海で 真珠の養殖作業に使われていた船を改装してやってます。25 フィートの船なんですけど、この 長さの船にしては幅が広いんです。和船ってい うタイプの船でして。要は平船で船べりの水の そばまで行きやすいんですよね。釣りとかされ る方はもしかしたらご存じかもしれません。バ ス釣りとかシーバス、スズキとかを釣る人なん かはカスタムベースによく使う船らしいです。

さて天草まで行きまして、これがいいですって購入して、これを大阪へ連れて帰ってきまして。トレーラーで運ばれてきて、北加賀屋の名村造船所の跡地にある船屋さんに入れて、設計は合田昌宏さんにお願いしました。今、神戸の長田のまちづくりの現場なんかでご活躍の建築家さんです。それから後々、13年、メンテナンスはほとんど自分でやりながら何とかやっています。エンジンの専門的なところは専門家にや

ってもらってます、、。



あと今、ちょっと知床の事故もございました ので、ここら辺も関心のある方がいらっしゃる かと思うんですが。いくつか大事な法律が川に はありますが、「何の許可が要る?」「許可が 大変でしょう?」って皆さんに言われるんです けど、基本的に川の上はみんなのものなので、 一般の人が遊ぶっていうことには問題がないわ けです。何となく大阪の都心の川はコンクリー トの壁になってるからバリアーがあるような気 がしますけど、皆さん、上流に行ったら普通に 下りれるから川で遊ぶわけです。でもそこで商 売をさせていただく、お客さまを運ぶとなると いろいろありまして、うちは、海上運送法の内 航不定期航路の届け出事業者です。言葉で書く とややこしいですね。12 名以下の定員の船は許 可という形は取りませんっていう。じゃあ危な いのかって言われるとそうじゃないんです。よ く今、ニュースなんかで出てくる安全管理規定 ですとか、運航安全管理者という言葉が出てき ますが、私たちがどういう規定や体制でやって いるか、というのを近畿運輸局に「届出」して 見てもらっている。それを受け取っています、 という関係に行政側とはなっています。

そういう意味では届け出事業者でできるということは、船の商売をする上ではそんなに難しくない。何年か経験を積んで事業を始めなきやいけないとか、多少あるんですけれども、例えば陸の上でタクシーのお仕事をやるというのと、そんなに変わらないんじゃないかと思います。

●御舟かもめの川の楽しみ方

いろいろ、ちょっときょうは頑張ってちゃんと したこと話そうと思っているんですが、私はた だのエンターテインメント事業者で、遊んでい るだけです。やっていることは舟で浮かんでい るだけでして「きれいですね」「気持ちいいで すね」って毎日言っているだけです。

でも「どなたにどう届けたらいいのか」ってい うことは一生懸命考えています。それは割とテ レビのときの経験なんかも生きているのかなと も思うんですけれども。そういう立場から、き ょうはお話をしていけたらなと。

もう少し、うちの船の話、させてください。 冬はオープンデッキにこたつ置いて。なぜ中に 入れないんだ?って、外が気持ちいいからです。 外にこたつを置いて、餅を焼いたり、、、。あ と利き酒クルーズとかお好きな方。干物をつる してある。お皿に出して提供するんじゃなくて。 小さい舟なので調理ができないということもあ りますが、あぶりながら1時間半、2時間、クル ーズしているうちに、ちょっと干物の状態も変 わるんじゃないかっていう、時間的な変化も楽 しめたらみたいな。そんなことも想像していま す。





あとこちらは毛馬閘門の写真です。大川の上流端、淀川の本流との隙間にあります。淀川の本流と大阪の大川の差、普段、大体 1.5 メートルぐらいの水位差がありますけれども。扉が奥と手前と 2 つ付いていますが。これで水位を調整

してもらって先へ進む。





昔のように淀川をさかのぼって落語「三十石」の世界のように、京都の伏見まで、大阪の八軒家から旅ができるといいんですけれども、残念ながら枚方辺りまで行くと川が浅くて、砂地が結構、見えてる所があったりするんで、残念ながら安全に定期船、定期航路としてやるのはちょっと厳しいのが今の現状です。実験的には伏見から下るというのは行われているのと、枚方までの航路は運航が随時あります。京阪電車で20分ぐらいで行けるのを2時間半かけて行く旅になります。

10 年ほど前、大手旅行代理店の方もたくさん参加して伏見から枚方までの航路が観光商品になるのか航行する社会実験に同行ど、淀川は観光商品になるのかっていうのをやったんですよ。国土交通省淀川河川事務所と大阪の舟運事業者と。みんな「つまらんからどうしようもない」って言って帰っちゃったんです。何もない、ずうっと広いんですけれど、楽しいと思うんだけどなと。

あとこんなのもやってます。夜通し、船を走らせる『大阪ボーテル』っていうのを毎年 1 回か 2 回、夜中、夜の 9 時ぐらいから始めて、朝日が出るまでやるんです。私、船を始めるときにイギリスのナローボートって船を楽しませて頂きました。産業革命時代の運河を使ってのんびり旅するんです。船上で日をまたぐ面白さといのもいいなと。大阪で港のほう行くと夜中でも動いてるんです。中之島へ帰ってくると真っ暗になってる。普段、ライトアップされたり、オフィスの明かりがついてる街しか、皆さん、

ご覧になったことがないと思うんですが、大丈夫かっていうぐらい真っ暗なんです。それもすごく面白いです。「誰が来んねん」ってよく聞かれますが、毎回、定員10名の船を4名さまのみ募集しますが、毎回受付開始から2、3日で埋まっちゃいます。女性の方、お一人っていうお客さまが一番、多いですね。これを言うと「え?」って言う人と「だよね」って言う人がいて、ちょっと面白いです。



きょう、どんな話をしていこうかなと思いまして。まず水都大阪の特徴の話を少し。それから何年かずつに区切って、その時期にテーマを当てるというか、設けてお話します。

2000 年から 2009 年が「雰囲気と鑑賞」。2010 年から 14年が「ウラとオモテ」。2015~19年が「期待通りと期待以上」という感じでテーマを置きまして、しゃべっていきたいなと思っております。13 年やらせていただいてまして、私たちとお客さまが見てきたこと、感じて来たことをベースにお話をしていきます。

●船上から見る水都大阪の特徴

まず水都大阪の外観というか、特徴みたいな話をしたいと思うんですけれども。地図上で見てもはっきりして、こういうときによく話題になるのは都心部と海岸線の距離ですよね。大阪はやっぱり、ちょっと都心部から海までが離れている。いいところで言うと、一番はやっぱり海に対して西に開けてる町っていうのが、他の都市では割と少ないんだろうなと思います。こ

こは、大正区の大正内港、尻無川の河口のエリアですね。大阪港の中で一番、奥まった所にあります。夕日がある辺りに架かってる橋が、なみはや大橋ですね。横のクレーンがダイゾーっていう会社の。一番、この辺で力持ちの80トンのクレーンです。これ、時々、新幹線の車両をつり上げたりするんですけどね。ご興味あったらうちのインスタ見てください。





よく他の地域の方と話していると、大阪の人はよく手を振るんじゃないかっていう都市伝説的な。ほんまかなと思うんですけど、そういう話がよく出るんです。大阪の川を見ていると川幅が比較的狭いことだとか。あとは大阪ってフラットなんですね。東京の堀なんかはどうしても切れ込んでる谷と丘の町ですよね。おのずと大阪は川沿いの方と近くなる。それから水面の高さのこともあります。親水性が高くなるように整備も進めていただいてるので。これ、道頓堀のドン・キホーテの前ですけどもね。そんなところが特徴かなと。

八軒家浜の川の駅の所です。大川のこの辺りが 一番、都心部だと川幅が広いんですけれど、そ れでもだいぶ近いのと、あと人がよく見える。 何してるかよく見えるんです。すごい見られて るように思うんですけど、こっちも見てるから ねっていう気持ちでいつも走らせてるんですけ ど。結構、いろんなことしてる人がいます。そ ういうところが特徴としてあるかなと思います。



あとこれ面白い写真です。これ、何の船かお 分かりになりますか。お砂糖を運んでる船が帰 っていくところなんです。いくつかこの写真に は情報があります。一つは橋が低い。地盤沈下 の影響がありまして、戦前の橋を中心に非常に 低い。ひどい所は 1 メートル以上です。この砂 糖を運んでる船は屋久島とか種子島、あちらの ほうからブラウンシュガーが天保山に届くんで すね。城北川、城北運河という、大阪の城東区 にある運河のそばにお砂糖の精製工場がありま して、砂糖をこういう小さい船に積み替えて川 を上ってくる。聞けば CO2 の排出量がトラック、 ダンプカーで運ぶよりも船のほうが抑えられる んだそうですね。全然、現役ですし、盛んに走 ってます。大大阪時代の美しい橋がたくさんあ るわけなんですが、残念ながらアーチで、しか も地盤沈下しててっていうんで非常に難所にな ってます。こういうのをクリアできる船長さん が今、高齢化で減ってるっていうのも実はすご く大きな話です。



船のサイズの問題なんですけれど。例えば東 京みたいに屋形船の数がなんで大阪はないんだ ろうっていうと、こういう橋が多いからですね。 大体、中之島、入ったら屋形船が動ける場所な いです。なので、じゃあどこ行く?ってなるん ですよね。上流の大川も桜ノ宮橋、通称・銀橋という国道 1 号線の橋があります。あれが既に低い。ネガティブに感じられるかもしれないですが、屋根があって走れる場所はものすごく限られてるということです。大阪は平べったくて面白い形をした船が多くなります。ただ正直、大きな船が造れないっていうのは商売がやりにくいってことですよね。アクアライナーという、大阪の都心部で走っている一番、大きな、京阪系列の大阪水上バスさんの船で大体定員 100 人ぐらいです。サンタマリア号って海のほうを走ってる船は、400 人ぐらい乗れたと思うんですけれど、その程度なんです。

一方、東京に行ったときに見た船。2009年の写真ですが、東京水辺ラインのリョウマ号だったかな?これ300人乗れるらしいんです。要は都心部に近い所で300人も乗せられる船を走らせられるっていうだけで全然、強いんですよね。10名しか乗らない船の人間が何を言っているんだって話なんですけど、そういうことはすごく重要ですし、舟運活性化っていうことを言うときに、こういう根本的なところはあらためて考えておかないといけないことだと思います。

この前、富山に行ったんですよ。岩瀬運河のカナル会館の所に行ったんですけど。こんなふうに船が留めれて、柵がなくていいな、ってめちゃくちゃ思うんです。大阪もこうしたらいいじゃん、かっこいいじゃんとか思うんですけど。これ、大阪では絶対、この景色できないと思います。なぜか。今日の潮位変動。さっき調べてきたんです。若潮っていう潮の動き。半月の小潮の、あんまり潮が動かない日よりもちょっと動き始めたよっていう時期に当たるんですけど、大阪が、干潮と満潮の差が60センチあるんです。大潮のときだと180センチぐらいあります。これが富山だと、日本海側だからでしょうね、17センチしかないんです、そら17センチだったら

何とかなるよねっていう話です。

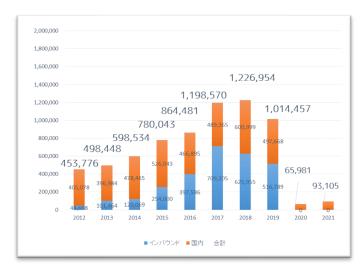
すごく重要な話だと思います。富山のこういう 場所が都心部とトラムからも近いような所に多 分、一般の方の船もぱっと止められるっていう ことは。でも逆に 300 人の船、走らせられるか っていうと、富山はそういう環境ではない。そ うすると一般の人の小さな船で楽しむ方向に持 ってくんでしょうし、東京だとどれぐらいお客 様を運んでなんぼっていうチャレンジになるん だろうと。



大阪の舟運利用者数の推移と書いております。 グラフの青い部分が外国人の利用者の方です。 赤いのが日本の方。合計の数が上に書いてます。 粗いデータのままですみません。一番ピークだったのが 2018 年に 122 万人。外国人の人が 62 万人ぐらいですね。大阪に来た外国人の方全体で、2018年が1142万人っていうんで、大体、大阪に来た 5 パーセントぐらいの人が船に乗ってるっていう計算になるのかな。これ、コロナ前に実は下がり始めてたっていうのが僕、ちょっと衝撃なんですけれども。これ、よく考えないといけないなと。2019 から落ちてるって、これ、なんか意味があるぞとちょっと思ってるんですけどもね。

そしてコロナ禍。外国人の方がいなくなって、不要不急の外出は控えるとなったときに、真っ先に船には乗らないですよね。観光する人の、しかもちょっと凝った旅をしたいという人が船を選んでたはずなので打撃がひどかった。2020年が6万5000人。だから100万人以上、乗って

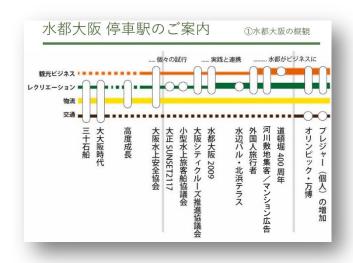
たところが90パーセント以上、落ちちゃったという状況です。『御舟かもめ』に関しては2020年が通常の4割ぐらい。2021年が通常の5割ぐらいの状況でした。



舟運利用者数の推移(水都大阪コンソーシアム調べ)

●水都大阪と舟運業の概観

変なものを作ってみました。何じゃこれってい う感じなんですけど。これ、うまくいってるの かどうか、不安でしようがないんですけれど。 『デイリーポータル Z』っていうインターネッ トのサイトで以前出ていた記事を真似て、電車 の停車駅の表の仕組みを使ってまとめました。



これ、左手に観光ビジネスとか書いてますが、これが特急とか準急とか普通とかそういうイメ

ージですよね。オレンジが、観光ビジネス、商売との目線。レクリエーション、余暇と言っていいと思うんですけれども。地元の方がどう楽しんでるかっていう話が緑。物流、さっきのお砂糖船の話が黄色。交通もインフラとしての交通が茶色っていう感じにしてます。停車駅になぞらえて、歴史上の出来事をいくつか並べてるというような形になっています。

『三十石船』と書いてますが、江戸時代以前、 鉄道が出てくる前の時期というのは交通手段は 船ですから。物流ももちろん、人や物を運ぶの は船です。あと夕涼み、舟遊びの世界っていう のは絶対にありますのでレクリエーションして ます。ただ、じゃあお伊勢参りみたいに外から いろんな人がばんばん入ってくるっていうこと では、恐らくなかっただろうというふうに思う ので観光ビジネスは点線にしてます。だから三 十石船と観光ビジネスはそんなに多分、関係な かっただろうなというようなことです。大大阪 時代を経まして。大大阪時代ぐらいまでは船が 大活躍してたはずなんですけれども。一度、高 度成長の時代。さっきの地盤沈下の話もそうで すけれども、どんどん川の環境が悪くなったり、 変わっていってることに背を向けるような形で 動いてきた時代が長いと思います。

ただ物流のところ。物流の強さをつくづく感じるんですけれど。砂利を運んでらっしゃる業者さんとかって何百年っていう歴史を持ってらっしゃる会社さんがざらにあります。脈々と船は、物を運ぶっていう形はずっと続いてきています。

大阪水上安全協会というのを書きましたけれども、ここでちょっと潮目が変わると私は思っていて。そこまで伝統的に川を使ってきた方ばっかりなんですが。水上安全協会って昭和61年なんですけれど、大阪水上バスさんがこの時期から始まってるんですね。水上安全協会って何かっていうと、中に会員が砂利を運ぶ、皆さん、

作業船のかたがたと観光船、私たちが両方、入ってるところなんですね。結局、川を観光船と物流事業船が一緒に使うときにどう調整していったらいいのか、安全に寄与していきましょうというようなところなんです。

このはもう交通というのは途絶えてしまってますね。大阪水上バスさんって実は最初「勤の船」いうのをやられていて。大川の上流の所、北区の長良と、それから都島区の友渕の辺り、今も大規模なマンション、団地になってますが、あそこから都心へ船で人を運ぼうとされてました。なかなか大変だったんでしょうね。何年も前になくなってしまってます。

2000 年の初めぐらいからの話なんですけれども。水辺を楽しもうとかっていうような個々の動きがあちこちでぽこぽこと出始めて。それが『水都 2009』の辺りから連携し始めたり、実際に具体化していきます。2013 年、14 年ぐらいから外国人観光客の方ってかなり意識されるようになって、この時期に船もすごい新規参入が多かったです。観光ビジネスの線もちょっと太く、夢をいっぱい持ったところに今、コロナが来てるっていうような、そんな状況です。

●秘密の場所だった水辺・水上

まずは 2000 年から 2009 年の頃に私たちが感じていたことを、雰囲気と鑑賞という言葉にまとめてみたんですけれども、ご紹介をしておこうと思います。

水都大阪 2009 以前って、水の上に出る、あるいは水辺に行くっていうのは秘密の場所に行くというか、行っただけでちょっと優越感もありましたし、こんなん知ってんねんで、他の人には教えたくないな、っていうことでした。

大阪の水辺に関わる人は絶対に上がってくる 『サンセット 2117』さんというお店。この尻無 川の、この形のハウスボートの店舗ではなくな っていまして『タグボート大正』という施設の

中に入っています。当時の「サンセット 2117」 は、船を直接お店に着けられる。上がれる。あ るいはお店にいる人が船に乗って出掛けていけ るというところでした。20年間ぐらいやられて た。2000年の初めぐらいですね。もともと仲間 同士で楽しむつもりでつくったのが、こんない い所があるんだったらと人が集まってきちゃう ようになって、お店になっていったものなんだ そうです。ここの管理は西大阪治水事務所さん ですけれども、最初はあり得ないと。この尻無 川というのは、今もそうなんですけど、燃料を 船に積むための岸辺だったり、あと昔は屋根瓦 を船に積むための基地というか、川港になって た所なんです。そこをちょっと拡大解釈という か、解釈を変えながら利用していっていた。こ ういう水辺のにぎわいというのは大事だよねっ ていうふうに行政の方々、大阪府の西大阪治水 事務所や大正区にも振り向いてもらったってい うのが非常に重要な話だったと思います。



「秘密の」と言いましたけれども、この時期って、どっちかというとお忍びで、あまりガイドとか必要じゃないというか、すてきな彼女と一緒に出掛けたいとかね。私たちが『かもめ』始めたすぐの頃も「われわれが来たのって他の方に言わないでくださいね」っていうお客さまが多かったのもこの時期です。

ここから 2 枚のスライドで行こうと思いますけど。これ、右に写ってる黒い服の女性が私の妻なんですけれど。吉崎かおりといいます。彼女は『水辺の街再生プロジェクト』というチームがありました。グループがありまして。彼女が勤めていたリノベーションの会社、アート・

アンド・クラフトさんの社員だったんですけれ ど、それがきっかけで 1 人で女の子が船に乗っ てるっていうんで、ちょっと珍しいというんで 話題にしていただいたこともありました。「天 満埠頭」というイベントが2004年。都市創生研 さんの大正の尻無川でのイベントもありました。 まさにいろんな所でそういうトライアルが起き 始めた時期だと思います。でっかいほうの写真、 奥はまだ天満橋が。もう松坂屋百貨店じゃなく なった頃かな。八軒家浜のビフォーの眺めです ね。水辺ランチなんていうイベントも「水辺の 街再生プロジェクト」の皆さんでやられてまし た。これ、左の写真は僕と嫁です。すいません、 身の上話、あんまりしないでおこうと思ったん ですけど、やっぱり自分が写ってる写真が使い やすくて。





結局、秘密の遊び場、とっておきの場所だよっていう所だったんですけれども、川は資源である、水辺は素晴らしい、気持ちいいよねっていうところで、水辺を開いていって人が来ることで水辺の景色が良くなっていくよね、っていう狙いがこの時期の取り組みにはあったと思います。こういう流れの中で、川の上に出れたら気持ちいいんじゃないっていうぐらいのことで『御舟かもめ』というのは始まりました。

●「雰囲気型」と「鑑賞型」

雰囲気と鑑賞って話なんですけど。お客さまを見てると二つの楽しみ方があって。これ、皆さん、どちらって思うんですけど。例えば、昼寝。「気持ちええわ。寝たくなるな」とか言うお客さんが必ずいらっしゃって。そのときに「いや、寝たらもったいないやろ」ってなると

きと「じゃあ寝よか」ってなる2つのパターン。 これはすごい大きな差です。

これ、毛馬閘門の写真です。左は外国人のお客さんです。『かもめ』始めたすぐのころで、一生懸命ガイドもしたくて、毛馬閘門はこうでねとか、水位はこうでねって、、、全然、聞いてないんですよ、これ。本とか読んでるでしょう。ちゃんと写ってないんですけど寝てるんですよ、こっちの手前の人とか。

でも「そうか!」と。これは、商売としてはガイドしなくても楽しんでもらえるという。一番いいですよね。素材のまま提供してほしいよっていう方も必ずいらっしゃるんですよね。

一方で鑑賞型って書いたんですけど。料理する感じで『かもめ』としてどう見てるのかとか、水都大阪としてどうなのか、もっとガイドしてよ、教えてよっていう方もあるわけです、別に日本人がどう、外国人がどうってことじゃない。たまたまこの写真はそうなんですけど。毛馬閘門見たとき、普通はこうなりますよね。みんな、わあって見てて撮るんですよ。ずうっと毛馬閘門の中にいるときはどきどきしてるんです皆さん。だからちゃんと料理して、ガイドでこういうふうに見てくださいって出したほうがいいパターンと、そうじゃないパターンがある。



昼寝は贅沢?もったいない?

『御舟かもめ』でオープンデッキにしてるのはいろいろ理由があるんですけど、椅子をちゃんと固定で置いちゃうと同じ方向を見ちゃうとい

うのもあります。空を見たい人は見といたらいいし、隣に座ってる彼女を見たい人は隣にクッション持ってってしゃべってたらいいしっていうつもりで作ったんですけれど。うまいこと、こういう 2 種類の使い方があるのは面白いなというふうに思います。

「真ん中を走りたがる」と「岸を見せたがる」って書いたんですけど、別に夫婦で対立してるってわけではないんですが。左が私の嫁です。彼女は真ん中を割と走りたがるんですよ、遊覧してても。「なんで」って言ったら「気持ちいいから」って。僕はガイド、割と。どっちかというと僕は岸寄りに行って、ほら、この木の間から見えるのが泉布観ですとか話す。

今『御舟かもめ』には、私と妻以外にも 4 人ぐらい手伝ってくださってる方がいるんですけれども。両方ありましてね。それがすごく面白い。それが共存できる場所でありたいなというふうに思いながらやらせていただいてるんです。

●「鑑賞型」が強まる

2009 年、僕らが始めた頃からだと思うんですけど。例えば左手の写真、ラバーダックちゃんが初めて2009 年に八軒屋浜の前に浮かべられたときなんですけど。「こっちを見て」と「昼寝してるな」と。「川に出てきて、これを眺めるのは意味があるので、ぜひ来なさいよ」っていう景色が増えたんです、圧倒的に。

2000年、2001年ですか、国の都市再生のプロジェクトで大阪は『水と光のまちづくり』っていうスローガンが決まってきた中で、10年たってきて、いよいよ動きが具体化してくる10年だったんだろうと。何となく「気持ちいいですから来てください」みたいなことはもう許されないというか「大大阪のあの景色がここでは見れるので、ぜひお越しください」みたいなことを言わなきや駄目みたいな感じになったのがこの時期だったと思います。



ラバーダック初登場/2009

中之島剣先噴水/2009

●都市の水辺「ウラ」が「オモテ」に

2010 年代です。よく水辺の話とかをするときに裏だの表だのという話が出てきますが、そこをすごくこの時期は意識したなという気がしております。時期的に水都 2009 が終わりまして、いろいろな実験も、すごく大規模で具体的な実験がばんばん起き始めて。私もまだ 3 年目から5 年目とかそれぐらいの時期で、非常に面白く関わらせていただいたことが多かったです。すごく。熱かったとか過去形で言っちゃ駄目なんでしょうけど、この頃はすごい熱かったなという気がします。

われわれも結構これ、水辺って表舞台になってきたんじゃないのって思ったのが 2012 年とか 13 年ぐらいの頃です。川って汚い。大阪の人は特に汚いと思ってるじゃないですか。暗いし、女性が 1 人で夜、歩くのとは怖いとか。

だったはずなんですけど、これ、2012 年ぐらいからマンションの広告の撮影を船の上でさせてくださいっていう話が来るようになりました。「中野さんのインタビューもそのマンションの広告の所に載せます」とか。「いや僕はそんな高級マンションに住めるような人じゃないんですけど」とか言うんですけど。要はマンションが欲しいのは美しい景観と歴史の重みですよね。それを語ってくれっていう話が増えました。テレビの取材も急に増えて『隣の人間国宝さん』という、関西では有名な番組がありますが、あれの人間国宝さんに認定してもらったのもこのときでした。

セルフリノベ賃貸って右に書きましたが。これ、すごいきれいにして写真、撮ってますけど。『かもめ』始めた頃に大川沿いの、もうそのとき、室内がぼろぼろになってた所を自分たちで改装して暮らさせてくださいっていう交渉で入ってた賃貸マンションがあったんですけど。ここ、6万円で入ったんですけど。2013年に退去したとき8万円になったんです。川沿いっていうのがすごく値打ちがついてきたんだなって、すごく実感するようになったのはこの頃のことですね。





そうなってくると、さっき 2000 年から 2009 年のところで言ってた秘密の場所というか、隠れ家的に使ってた人の行き場がなくなったよねっていうのがこの時期でした。

この写真、これ、まだ中之島公園が改修される前のヤナギの木がいっぱい生い茂ってたときの剣先公園です。今、2022 年の写真がこの右のほうです。『隣の人間国宝さん』で取材されたときに船の上で夫婦で月亭八光さんにインタビューされてたんですけど、たまたま水辺で高校生がデートしてたんですよ。「こんな感じでデートしてたんですか、よろしいな」とか言われて。午前中にロケしてたんですが、あの子ら、学校、大丈夫?みたいな。ばっちり放送されてましたけど。

2009 年よりも以前はベランダで洗濯物を干してる人とかも、結構だらしない格好でうろうろしてたんですけど、そういう人がぐっと減りました。干し方もきれいになって。

お客さまも、実は「道頓堀、通らないでください」って言う方が結構、多いです。「静かに過ごしたいとか、「集まってるのとかあんまり見られたくないんで」とか、「ずうっと海のほう

行っといてください」とか、なんてありました。





「水辺」と「水上」は違うというのを私、何回も言ったんですけど。水辺に人が集まるようになりました。柵とかも非常にいい柵。向こうがよく見えるいい柵が増えて、歩いてるといいなって思うことも多いんですけど、逆に柵がすごく徹底されるようになりました。かつては水辺にあんまり人が近づかない所がいっぱいあったんで、曖昧にしてある所に曖昧にみんな使ってて、楽しんでいたんですけれど、ちゃんとしなきゃいけないね、となってきたわけです。そうなると、水の上に出るのは結構大変よねって話になりました。

僕、大好き場所で、トコトコダンダン(木津川 遊歩道)とか、ちゃんと柵が開くようにも作っ てくださってるんですけど、残念ながら、歩道 が飛び出してるから、潜り込んじゃうんで、船 着けられないです。





難波橋(堂島川)の上流の所もあれ、再生砕石っていうのかな、ごろごろ石が置いてあって、自然状態の河川に戻せるから野鳥とかも結構いて、いい所なんですけど、ここもびっちり柵があるから近づけない。

道頓堀もなかなか残念なんですけど。非常にいい柵。ワイヤで、向こうがすごく見えるんですが、ここは遊歩道の運営などいろいろな事情があると思うんですけど、宣伝用の横断幕が、ズバーっとなってまして。戎橋の端の所も(向こうが見えなくて)悩ましいです。



すごく水辺に人が出てきたので、私自身一番 わくわくしてた時期なんですけれど。その先の 水上までは来れないかっていう。みんな、ここ で止まっちゃったっていうのが正直あったんで す。思ったより水上に出にくいんです。

●水上に残された「ウラ」的状況

これも面白いエピソードなんですけど。私た ち「クルーズポタ」という、折り畳み自転車を 船に積んで出掛けていくっていうイベントをや ってるんです。これ、右下の写真は八軒家浜の 写真です。浮桟橋なんで船との高さは合ってる 状態でパッと積めるんですけれど、このときは ユニバーサルシティ港へ行こうってなったんで す。向こうは渡船とかもあるから、ここで降り て渡船巡りして楽しいよねって。しかし、この 桟橋との差がすごいんですよ。これ、浮桟橋な んですけど。高低差がどれぐらいあったかな。 40 センチか50 センチぐらいあるんですよね。折 り畳み自転車だったから、こうやって受け渡し で下ろせましたけど。要は、ここは大型の船し か着かないんで、この形になっていて「これ、 やっぱ来ちゃ駄目なんだ、こういう小さい船は」 って思いました。このユニバーサルポートは他 の河川の公共桟橋と違って港湾局の管理なんで す。港湾の考え方って、船の重さと着岸時間で 船着き場の使用料を計算するんです。『かもめ』 はちっちゃ過ぎて、着岸料が24円かなんかだっ たんですよ。24円かってなって。「じゃあ今、 書類とか受け渡しに行ったんで24円、払います」 って言ったら「いや、そういうわけにいかない んで振り込みでお願いします」って。いやって いう。今は改善してるかもしれないのですが、

港湾関係の方いらっしゃったらごめんなさい。 でもそういうことがありました。

これから万博でベイエリアの話ってご興味、 ご関心、あるいは関わってらっしゃる方、多い と思うんですけど。どういうサイズの船でどこ まで行くかと、どういう桟橋がそこにあるのか というのは致命的な問題になりますので、ぜひ 知っていただきたい話ではございますね。





ここに至って、舟運の夢と現実って書いたの ですが、この頃「水辺バル」と「ウキウキ船さ んぽ」っていう船のイベントがありまして。バ ルイベントって当時、結構あって。バルチケッ ト買うといろんなお店を回れて、ご飯、食べれ ますみたいなのがあったんですけど。それで船 も乗れちゃうっていう素晴らしいアイデアの、 大好きなイベントだったんです。しかもこのと きは『ウキウキ船さんぽ』って、港のエリア。 これ、すごいんですよ。鶴浜とか、イケアの前 に仮設桟橋、作っちゃうとかね。名村造船所の 跡地。住之江区のほうとかも行っちゃうし、い ろんな所、船で結びましょうっていう夢のよう な企画で。これが多分、水都大阪の将来像その ものを実験でやろうという勢いだったと思うん です。僕はちっちゃい船で、お客さんもたくさ ん運べないんで、確か八軒家と本町橋をずうっ と往復してましたが、いろんな船が役割分担し たんです。



しかし、残念ながら秋って潮が高いんです。 これ、当時の内部の資料で、ちょっと手書きの メモが残っちゃってるんですけど。DL 値、これ、 11 時が六十何センチとかいって書いてあるんで すけど。この黄色にしてある時間帯は、中之島 は大きな船はくぐれませんっていうタイミング なんです。こうなると、水門を通って道頓堀を 経由して港のほうへ出ないといけない。結局、 このとき、船のキャパ不足が露呈してしまって、 船に乗りたいって桟橋に来られてるんだけど、 もう船いっぱいですとか、今からこの時間はあ っち向き行けないんで、こっちに回って、あっ ちに回って、こう回ってくれたら船、乗れます よとかっていう状況が多発してしまったんです ね。もう潜水艦、造らないとどうしようもない。 潜水艦、いいと思うんですけどね。誰かやらな いかなと。潜水艦やってほしいんです。



よく A 点 B 点間。違う所へ船で行って、そっから何かするっていうの楽しいよね、という将来像があるんですけど、思ったよりしんどいんです。結局、よくよくお客さんの声を聞いていると、車で桟橋の近くまで来るんで「同じ所に

戻ってくれるほうが便利です」となっているんです。『御舟かもめ』も、今、八軒家浜発着のコースばっかりです。昔はいろいろやってたんです。こっちへ止まって、あっちへ下ろして、こっちから乗ってもらえて。オペレーションも大変だった。お客さまも割と元に戻ってもらったほうがいいですっていうほうが圧倒的に多いです。9割ぐらい。

「違う所へ行ける魅力」は感じていて、どう伝 えたらいいのか、よく分からないんですけど。 これは大きな話だなと。

あと、大きな船は航路も運輸局から許可をも らわないといけないんです。要は A 点から B 点 に行きますという航路をやりますってなると、 その航路をちゃんと走っていった先の桟橋もバ リアフリーである、乗る桟橋もバリアフリーで ある、陸上係員はここに待機するっていうのが 全部やれますかっていうチェックを受けないと いけないんです。だから「今度、あっちに行く クルーズやります」というのは大きな船は簡単 にできないんですね。僕らみたいな小さい船だ と比較的、こっちからこっち行きますができる んですけれども。A点からA点へ戻るっていうこ とだと割とやりやすい。要は岸から出てしまえ ばどこを走っても平気なので。大きな船もいろ んなコースが取れるんですけれども。船とか桟 橋、航路の限界と書きましたが、いろいろな要 素でもって。だから、この運航使用船舶って書 いてるでしょ。これ、水面、高さもみんな、メ モして、あの船、今の時間帯、行けるんとちゃ う?とかね。潮位変動って予定どおりいかない んですよ。今日も20センチぐらい高い時間があ ったと思います。橋が低い状況で20センチ違う っていうのは大弱りなんです。

船を泊める(係留する)場所というのが問題でして。桟橋はどんどん設計されるんですけれ ど、船をどこに置いときますかっていう話はな かなか進まない。水上安全協会、毛馬係留施設 っていう名前が付いてるんですけど、これ係留 施設です。この柵がビューっとあって、いつも 荷物やガソリン缶とかを、柵をまたいで乗り越 えて。子どもが横で野球してるんですけど、 「あれ、おっちゃん、またいでっていいの?」 みたいな。「君は来たら駄目だよ」って言いな がらまたぐっていうのを今もやってます。ちゃ んとお金もフィート何万円とかかるんです。普 通マリーナって、電気、水道があって、鍵がか かるものなんですけれども、残念ながら、あり ません。ただ、いろいろな法律の壁をクリアし て、私たちにこの公共の公園の横を貸していた だいてるだけで基本的にめちゃくちゃありがた いんですけれども、希望者が多くてここもいっ ぱいになっています。



結局、船を止める場所というのが一番、難しくて。私たちも運航を始めたときは正直、グレーなんですけれど、造船所さん。港のほうの天保山の造船所さんの横に間借りするような、いろいろ止めてある横に抱かせて。『抱かす』って言うんですけど、他の船にさらに横付けさせてもらって、そこから1時間かけて天保山から都心部まで船、運んできて商売やらせていただいたんですけど。結局、船を止める場所がない。特に新規の参入。基本的に河川に何か置いとくっていうのは許可が出ない、河川法では許可は出ないので、これは全然、解決していかない。

ずうっと話題に出るんですけど解決していかない話ですね。この前もね、、、いや、やめときます。長くなっちゃう。

このように、2010年代の前半、水辺が表になっ てきて、商業施設とかマンションも増えました。 中之島バンクスから始まって、中之島ラブセン トラル、キャナルテラス堀江とかいろいろ。八 軒家もそうですね。いろいろできました。人も 入るようになってきた。マンションも増えた。 公園もイベントも多いし、にぎわいも増えまし た。船としてもありがたいんです。ラバーダッ クが出たり。ネタが増えるのは絶対的にやっぱ り良い。「こんな見どころがありますよ、あん な見どころがありますよ」って言うことは増え ました。ただ、それまでユーザーとしていらっ しゃった、例えば「カフェではなく純喫茶を選 びたい」みたいな方。「道頓堀は通り過ぎてく ださい、止まってほしくないです」っていう人 の隠れ場所が減っちゃった。行き場のない人が 現れるようになった。水辺と水上の壁というの か、両側の問題。舟運の側もそれだけの受け皿 を用意できなかったことっていうのは現実的に はあったんだろうなと。水辺が裏だったのを開 いてきたのはいいんですけど、まだ道半ばなん だろうなと思います。

●「期待通り」と「期待以上」

2015年から2019年ですね。期待どおり、期待以上というふうにテーマを振りました。外国人のお客さまがどんどん増えてきて。2015年が道頓堀400周年でした。すごくいろいろなイベントがあって、あのトム・クルーズさんが道頓堀、走ってる船から出てきて映画のプロモーションやるとかね。NHKの歌謡コンサートの生中継、天童よしみさんが船の上で歌ってるのを道頓堀からクレーンで撮るとか。一本松海運さんがすごい得意なんですけれど。それをやられたりと

か。信じられないことがたくさん起きた時期ですよね。

観光の商売をやらせていただいてると、よく言われることに「期待どおりのものをお見せした上でプラスアルファをやりましょうね」ってよく言われるんです。当たり前っちゃ当たり前なんですけど。ネタばれになってもいいから、インスタでも YouTube でも何でも、どんどんいいものを上げときなさい。皆さん、来てくれるようになるから、っていう話なんです。だからとにかく短い時間で大阪城と道頓堀を見たいんですよ。早くその2点間を、しかも多数の方を運んでねっていう話にどうしてもなってくるんですよね。

テーマパークのようにって書きましたけど。 決して全部、悪い意味では言ってないんですけれども、非常に楽しかった時期です。とことん アホなこともいっぱいやったら楽しいな!って すごく思うんですけれど、どんな船でもいいっ ていう感じにもなってきてました。



さらに、今、テーマパークのようにって言っ たんですけれども、ドラマのようにという状況 にもなってきました。

うち、プロポーズ成功した方が今、もう 11 組ぐらいいます。そのうち海外からのお客さまでプロポーズ成功した人が 3 組。台湾の人と、この写真のシンガポール人の彼と、あとナミビアから来た人でしたね。見ず知らずの所まで来てプロポーズまでやっちゃうという壮大な計画なん

でしょうけどね。アジア系の方って、日本人も多分、凝るほうなんだろうと思うんですけれど、すごいプロポーズの場面づくりに気合が入っていて、メールが来るわけですよ。インターネットで見てると夕日がきれいらしいと、桜クルーズというのをやるらしいなと。あと噴水が出るらしいねと。それで「ちょうどそのサクラがきれいな所で、日が沈むぐらいのタイミングに15分間ぐらい、そこの辺りに浮かんでおいて、噴水が出るのも見たいと。そのタイミングで船員さんが花束とプレゼントを僕に持ってきてくれ」っていうオーダーを受けるわけです。僕、英語、得意じゃないんですけど散々やって。これ、うまくいかなかったらどうしよって。

彼は、外国から調べて、それだけ全部、分かる状態だったっていうことなんです。それ、結構、重大だなと思うんですけれど。そのとおり見せてくれっていうことなんですよね。これ、天気、悪かったらどうするつもりやったんやろうとか、いろいろあるんですけど。こっちは段取り万全で構えてるじゃないですか。サクラの忙しい時期で大変やったんですけど、そしたら彼が道、間違えて遅れて来たんですよ。彼女がぶりぶりに怒ってて。私をどこに連れてくのみたいな感じになって、結果、成功したんでよかったんですけれど(笑)。



皆さんもいろんな楽しみ方を想像したり工夫 したりされるようになってきた時期でしたので、 すごく面白いんですけど、大変だった時期で、 くたくたでした。いっぱい走らないといけない し、効率よくたくさん。そもそも10人しか乗らない船を造ったのを呪った時期でもありました。

結局じゃあ「道頓堀です、グリコの看板どう ぞ!」って見せたときに、割と反応してくれて ないみたいなことがあるんです。「これは期待 の景色だから見せましょうね」って言われるし、 いろんな、いわゆる OTA サイトと呼ばれる『じ ゃらん』などに、そんなところに卸してました。 「こういう写真出しましょう」「そしたらクリ ック数が多いです」ってめっちゃ言われてたん ですけど、いざ外国人の方、連れていったら、 公会堂とかの前へ行っても全然カメラ向けてく れなかったりするんですよね。そうかと思って。 近代建築とか、外国人の人には珍しくないのか ということもあるんですけれど。じゃあ何にカ メラ向けてるかっていうと、実は結構、こうい う場所だったりするんです。高層ビル多くてす ごいとか、高速道路うねうね通っててすごいと か。

期待どおりと期待以上のものっていう話で行くと、期待以上を担ってるのは裏とされてた感じというのか。何となく通り過ごされてたというか、ガイドブックに載らないほうの景色をどう見せるか、どう混ぜるかっていうようなことが結構、問われるようになってきたなというふうに思います。

これ、左の写真が。僕、すごい好きなんですけど。これ、錦橋っていう橋です。ちょっと切れちゃってますが、左手に住友銀行の大阪本店があって、右手にフェスティバルタワーがあって、新しいものと古いものと。高速道路もあって、すごく一粒で何度もおいしい場所だと僕、思うんですけど。あとこの右手も、列柱水路ってよくマニアの間で言うんです。高速道路の下が面白くないか面白いかっていう話もありますが。水面に映って高速道路の柱がダーっと続いている。

「大阪らしいのを出してください」って言われ

るんですけど「何だっけ?」みたいなのが分か らなくなったのも実はこの時期だったりします。





われわれ、それでどうしたかっていうと。お 客さんの様子、見てると、その方の興味によっ て見えてるものが違うなということに気が付い たんですね。生き物が好きな人は生き物ばっか り見てるし。橋梁の設計とかやってる土木系の 会社の方が宴会とかやって「俺はここの橋のど うの」とかってずうっと話しているんです。何 でもない桁橋なのに、そこで止まるみたいな。 その方がどういうバックグラウンドを持って景 色を見てるかっていうことで、全然、違うって いうのがすごく面白い。事前にどういう情報を こっちから発信しとくかっていうこととリンク してくるんですけれど。それでコロナの前あた り、やるようになったのが左側。イメージ写真 で恐縮なんですけど。船に本、積んでるんです けど、『舟×読』(ふなどく)っていう、中崎 町にあるアラビクっていう古本屋さんの店主さ んにお世話になって。川絡みの文学とか小説の ネタを川の上から見る。江戸川乱歩の『黒蜥 蜴』、最初に書かれたのは東京が舞台じゃなく て大阪が舞台だったので、あの本の中に描写さ れてる何とか橋っていうのは多分、大阪のこの 橋のはず、という話をしたり、大塩平八郎はこ こから船でこっちへ逃げたんじゃないかとかい う話をするんです。興味がない人はなかなかし んどい話で大丈夫かなと思ったんですけど、結 構、来てくださるんですよね。

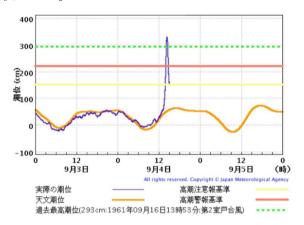
あと冬場に野鳥を見たり。京都府立大学の福井 先生と高林さんという研究員の方にお世話にな って解説してもらったり。あと『水中のぞき見』というチャレンジ。これ、全然、お客さんが集まらなくて、なんでだってなってるんですけど。水中カメラを突っ込んだら結構いるんですよ、生き物、大阪の川もね。沈んでる自転車とかが見れるのも面白いなと思ってやったんですけど、全然、お客さまが入らなかったんで、こういう所で時々、言って反応を探っていこうと思ってるんです。

要はチャンネルを開くというか、チャンネルを合わせてもらうというか。ベタとマニアというか、両方をうまく用意して。船上をいろいろな、町ネタの扉にできるっていうことを探っていかなきゃなというふうになった時期でした。

●防災への意識

あとこの時期。若干、話がずれるんですけど も、この話も絶対しとかないといけないなと思 って持ってきました。2018年に台風21号。関西 空港の橋が、船がぶつかって止まっちゃったと きの台風です。これ、だいぶやばかったんです ね。港に近い所にお住まいの方は実感されたか もしれませんけれど、これ潮位グラフなんです。 このオレンジのグラフが月と地球の関係から出 てくるグラフなんです。この台風、通過したと き、こんなに上がっちゃったんです。史上最高 潮位というのを記録しました。緑の点線が第2 室戸台風のときの水位なんですけど、それを 軽々と超えてしまったっていうことが起きまし た。よく「大雨が降って増水で走れないんじゃ ないか」とかってお客さんに聞かれるんですけ ど、大阪で心配しなきゃいけないのは高潮です、 絶対に。海から来る何かに対して絶対、警戒し ないといけないんですけれど。これ、アーチ形 水門、これは尻無川の水門ですが。今、西大阪 治水のページなんかに行くとこれ、YouTube に も出てますけれど。あれ、アーチが閉まって高 潮から町を守ってくれるわけです。そんな役に

立つことあるんかなって正直、思ってたんです、これまで私自身も。けど、この台風のときはあと30センチかぐらいの所でぎりぎりだったんです。これ、さらにあと何十センチが上がったら超えてきてた。超えてきたら多分、西区とか結構、水に浸かる所が出たはずです。かなりな状況でした。



この川はどこにつながっていて、どっち向きに流れてるって、皆さん、ご存じない方が多過ぎるなというのを思っていて。これはもちろんインターネットだとかそういうソフト面でいろいろ広報していくのも必要だろうと思うんですけれど、なんか分かるようにしといたほうがいいんじゃないのかなっていうのはよく思います。特にこの2018年の出来事があってから思うようになりました。

私、城東区に住んでるんですけど、寝屋川の そばなんです。寝屋川水系、うちの辺り低いん ですよ。ハザードマップでも怪しい感じなんで すけれど。寝屋川のこの大川の京橋の辺り。だ から地図でいうと左の辺りの所は、この寝屋川 水系の水が集まってくる、プラス、大川がいっ ぱい流れていると、寝屋川の水が大川へ出てい けないぐらい、大川も増水するとそうなるんで す。そこで京橋とかこの辺が危なくなるってい う現象が起こりやすい所なんです。わが家、古 い家に住んでるもんですから怖くて、土のうを 借りてきて家の前に置いてたんです。そしたら ご近所の人からばかにされて。「何やってんね ん、あほちゃう」って「全然、大丈夫やん」と。「いや、川、見に行ってみて」ってなったんです。現実に大阪市内はそういう場所がいくつかあります。観光とか都市魅力という意味では全然、例えば寝屋川水系とか追い付いてないエリアになんですが、そういう所があることを、私もガイドするとき必ず言うようにしてるんです。地下の放水路とかいろいろありますし、知ってる方は知ってるものになってると思うんですけれど、周知は大事だなというふうに思います。

●「どう売るか」に偏っていた「水都」

2015年~2019年。割と他の地域の方も、「大阪っていったら水の都だよね」って言ってくださる方が多くなってきたのもこの時期です。東京とかも、それこそ『水都東京』だって言ってると思うんです。『水都』って結構、みんな言ってる。各地で競争してる時代なんですけれど。これを一歩リードしたのはすごい、各立場のかたがたの努力の結果だと思うんですけれど、

「売り方 8 割ですよ」とか言われたことがあってがっかりしてるんですけど。マーケティングとか、どう売るかっていう話がすごく強くなって。結構、各地に似たような所、多くない?みたいな気もしてきてしまった時期です。大阪らしさって何だったっけなとか。そういうのがコロナ直前までの。それがもう満タンになってきた時期に起きたコロナだったなという気がしております。

最後のセクション、コロナを超えて。さっきのグラフじゃないですけど、いろいろな助成金も頂けたり、いろんな方に救っていただきましたし、私自身も船以外の仕事とかも手伝ったりとか、いろいろやって何とか乗り越えてきました。緊急事態で。休業要請って船には出てないんで、なので休業した日に対してどれだけ出るってないんですけど。いろいろ悩ましかったん

ですけれど、自主的に休業にして、私たち自身ももう2カ月ぐらい船に乗れない、川に出ない。 久しぶりに川に出たらめちゃくちゃ気持ちよかったんですね。それで再開するときにどうしたかっていうと、乗船時間を長くしたんです。値段も上げました。速度も落として、BGMもやめちゃったんです。結局「川の上でチャプチャプしているだけで値打ちありませんか?」っていうふうに、腹をくくって言おうってなりました。それが良かったのか悪かったのかまだ分からないんですけれど「雰囲気型への回帰」って、大げさに言うとそうなんですけど、そんなふうなことで現在やらせていただいています。

●「見えないものを見せる」

「コロナを越えて」として将来について4点 ほど。先ほど話した、その方の知識とか知って ることによって見える景色が違うっていうこと なんですけど。例えば僕が好きな景色を挙げた んですけど。これ、九之助橋って、東横堀川な んですけど。橋の欄干に、近くにかつてあった 住友家の銅吹所があったよっていうデザインが されてるんですけど。それを見たって誰も分か らないし、川から見てたら特に説明書きもない んで。いや説明はないほうがいいと思ってるん ですけど。こういうことが、今、大阪の町中で も昔からの古い道にれんがのタイルが少しあし らってあったりするじゃないですか。ああいう 「これ何か意味あるんかな」みたいな「匂わせ」 がすてきだなと思っていて。こちらは、端建蔵 橋っていう、中之島の一番、西の土佐堀川の橋 なんですけど。これ、ご存じですか。3回ぐら いかさ上げされてて、もう 1 メートル以上、上 げられてるんです。地盤沈下で沈んじゃうから。 コンクリートのこれぐらいのブロックの上に、 はりが載っててみたいな感じで。素人目に見て も3段階になってるの分かるんです。これ、も っと分かるようにしてあってもいいなって思い

ます。じゃあそこに看板とかじゃなくて、なんかデザイン的に見せても面白いよなとか思ったりします。

「定番づくり」。こてこての所はもっとこてこ てでいいよなってよく思うんです。道頓堀とか どれだけきれいに整備されて、いい物が置いて あっても、なんかわちゃわちゃ。いつもコント とか漫才の練習してる人がいて、いいんですよ。 すごい愛を持って思っているんですけれど。も っとテーマパーク感があっていいと思うし。例 えばこれ、道頓堀の商店街の方とかにきっと怒 られるんですけど、このネオンのゲート、これ、 川の上にちょっと、ぐうっと持ってきてもらっ たら面白くないかなって。



「ウラらしさ」。もうちょっと隠れ場所もほしいな、ということで、私が好きな所でへぇと思った所をいくつか。ここは城北川です。多分90年代、入ったぐらい?80年代の終わりとか「アメニティー」とかそういうことをいわれた時代のものだと思います。雁木ではないんですけれど、川沿いに階段があって、少し切ってあって、柵も低い。だから上のレベルを歩いてる人は水がよく見えるし、結構、ここで座って休憩してたり釣りしてる人がいたりします。ここを船で走ると、すごく岸の方と会話もしたりして楽しいんです。川に近いけど裏っぽい感じ。

あと、この中之島公園の『バラの小みち』。こ の安藤忠雄さんの子ども本の森と東洋陶磁美術 館の裏の所ですけど。ここ、この前、ドラマの

ロケを船の上でやってもらって、中之島でドラ マ撮りたいと。背景を探りたいから 1 周回って くれって監督さんに言われました。松竹の撮影 所の監督さんでしたけれども「どこで撮影しま しょう?」と言ったら「ここしかない」ってこ の場所を言われたんです。「他は全部、冷たい から駄目」って。船の上で女優さん、ワンショ ットで向いたときに、真後ろに何が来るかって いうとここだけ緑なんです。あとは壁か柵なん です。柵もいくらおしゃれないい柵でも、やっ ぱりドラマの会話してる女優さんの後ろが柵じ ゃないほうがいいんでしょうね。ただここ陸か らも柵なしなんですよ。植栽だけで水辺まであ るんですけど、ちょっと距離があるんで悩まし いところですけれど。これもちょっと川からう まく目隠しにもなり、すごい好きな所です。す みません、私の好みにずっとだらだらね。

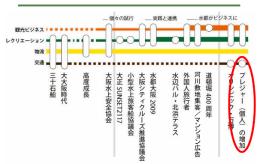
「五感を開くしかけ」。水上に出てもらったから経験できてる、っていうのをしっかり刻んでいただきたいし、それがコンテンツにちゃんとなる。これだけ動画とかインターネットでいろんなものが配信できて、あらかじめいろんな経験ができるようになってくると、何が値打ちがあるのか。「見たり聞いたり」だけじゃない「触れた」感じ。SUPが水上を楽しむのに一番、無敵だと思っているんですけど、運べるし狭い所も行けちゃうし、低い橋もくぐれちゃう。写真はサップの国際大会が2019年の秋に中之島で行われました。

あと「桜ノ宮ビーチ」も直接、川に触れます。 あと城北川、80 年代の終わりに「西浪橋公園」 って。ふるさとの川づくりモデル事業っていう のがあったそうですね。あと「ベータ本町橋」 もすごく楽しみにしてる、サップの今、拠点に なってますけれども。本町橋のあの場所で水に 触れるっていう状況がつくれたらすごいなと思 います。

●個人の利用者がつくる「水都大阪」文化を

もう最後のパートになってくるんですけれど。 さっきの、すいません、この図で行かせてくだ さいね。今、最後の、一番、右に書いてるプレ ジャーの増加って書いたんですけれど。水都が 「ビジネス」になってきて、大きな船が増えて、 どんどん走るようになると、ローカルルールみ たいなものがすごく増えちゃったんです、結局。 ルール作りが追い付かなくて。例えば道頓堀だ と。船って右側通行ってご存じですか。右側を 走るってことになってるんですけど、道頓堀は 申し合わせで左側通行になってるんです。これ は太左衛門橋船着場が、大型船は左舷で着けな いと乗り降りしにくい。そうすると、そのまま 時計回りに出たほうがスムーズだからっていう ことなんです。それは何も知らない一般の方が どんどん入ってきたときにどうなるか心配。大 型船は大型船でやっていかないといけないので、 まだこれは特に水上の舟運業界の宿題というか、 今、まさに悩んでるところなんですけれども。

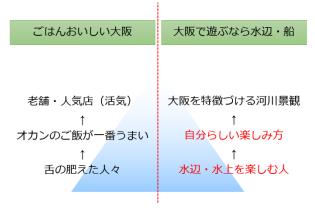
水都大阪 停車駅のご案内



水辺ではなくて水上を利用する人が増えてくると、そのルール以上に文化というか、モラルみたいなものができてくることを期待したいなというのが僕の今の気持ちです。だから、いかに一般の人が水上に出るきっかけが必要。「皆さん、免許、取ってください」っていつもお客さんに言ってるんですけど。3、4日あれば取れますし、ぜひ。私、2級しか持ってないですが「船とか乗れると楽しいですよ」ってよく言ってるんです。

これは若干おこがましいんですけど。『八百 八橋』といわれた時代、『天下の台所』ってい われた時代っていうのは「現場からの水都」だ ったんだろうなと、ずっと前からよく思います。 結局、八百八橋だ、大阪は水辺だってなったと きってのは、先にまず交通とか物流にどうして も川が必要っていうしっかりした足場があって、 そこから出来上がってきたものですけれども。 今の水都の動きというのは、スローガンとして まず水都大阪ってのがあって「それいいね」っ てなって、みんなが動き始めるっていう、まだ その段階だと思うんですね。これの例えをよく 言うんですけど「お好み焼きはうちのお好み焼 きが一番うまい」っていうのを必ず大阪の方は 言うじゃないですか。結局、舌が肥えてるんで すよね、みんな。おかんのご飯が一番おいしい から、いい店が多い。そういうのが一番、足腰 が強いんじゃないかなとよく思うんです。コロ ナになって、インバウンドという大きな動きが ぴたっと止まってしまった瞬間に脆弱なところ がすごい出たのはこういうところだと思うんで す。「大阪は川だよね」っていうのを本当にし っかりしていくためには、水辺も、水上も個人 で楽しんでる人が増えてこないと。そういう人 の層が厚くなるとピラミッドの上に、大阪は水 の都だよねってリアルになる。

んなタイプの人。雰囲気だけ楽しみたい人も必ずいて、そういう人たちの楽しめる環境も大事だし、マニアックに見たいっていう人たちにも応えたいし。そういう、いろんな触り心地がある。今は既に大阪にはすごくいろんなタイプの水辺と、川の幅とか、川の特徴もあるのでもともと楽しいんですけれど、そういう感触がある大阪をお伝えできたらなというふうに思いながらやらせていただいます。きょう、話させていただいます。きょう、話させていただいたことが何かのお役に立つかどうか分かりませんが、ここで私のお話、終わらせていただこうと思います。ありがとうございました。



そういう、いろんな触り心地というか。いろ

質疑応答

質問者1;今日は本当に貴重なお話で、ありがとうございました。本当に、より大阪の魅力を感じました。コロナ禍で、近所の公園を見ているとすごく利用している人も増えたし、身近な自然っていうことで、水辺に集まっている人も増えたり、その行動も違ってきているのでしょうか? そういう変化とかってあるものかなと思います。

中野;まさにコロナになってから、特に中之島 公園が開けていてよかったなってすごく思うよ うになりました。やはりうちの船も緊急事態宣 言になって、どこも外出しなかったんですが、 「最初に外に出るのは船に乗ろうと思ってたの」 って言って来てくださった方がいらっしゃいま

した。地元の近所の人に知ってもらって乗って もらうということは一番、大事だなと思いなが らやってきましたので、そういう方に届いてた のかなと。久しぶりに、2年ぶりにご家族で集 まりますっていうお客さまも今、すごく多くて。 屋外でオープンだし、川が目の前にあるしって いうような方が多くって。今回のタイトルも 『観光と余暇』としたのですが、もう5、6年前 に NHK 時代の後輩が乗ってくれたときに「観光 の地産地消みたいで、すてきですね」と言って くれて、うまいこと言うなと思ったんです。そ ういう方向が強まってるのは事実だと思います。 例えば大阪水上バスさんが今、『スイスク』っ ていって、大きな船の中でセミナーをやられて います。少し、各社のそういう商品づくりとい うか、そういうのも変わったなというのは感じ ます。

質問者1;インバウンドが続いていたら、変わっていましたか?

中野;そうですね。でも、あんまりインバウンドのお客さまにっていうのは意識しないようには以前からもしていて。結局、旅に来た人は。効率よく回ってとは言うんですけど、意地悪かもしれないですけど、「効率よく回れません」って言うようには以前からもしていて。さっきのプロポーズの人は従わざるを得なかったんですけど、インバウンドの方というのは意識しないのを基本にしながらやってる感じですね。

岸田(JUDI 会員);きょうはどうもありがとう ございます。岸田といいます。2000年以降の流 れで水辺のまちづくりに加えてもうひとつ、光 のまちづくりがあって、水と光のまちづくりが 進められてきたと思います。この間にたくさん の橋がライトアップされ、護岸もきれいにライ トアップされてきています。『水都大阪 2009』 のときに順次整備されてきたものが12年以上た って実は今、維持管理が課題になっています。 球が切れたぐらいならいいですけど、調光器が 壊れるともう付け替えられず暗いままです。そ れで次のプランを練っているようで、今日、た またま光のまちづくり委員会の人からヒアリン グ受けたのですが、今後、橋のライトアップだ とか護岸のライトアップを、もっと統一感のあ るものにしたほうがいいですよね、また、赤い 色とか、どぎつい色はやめたほうがいいですよ ねという質問を受けたんです。船に乗ってずう っと眺めるなら統一感があったらいいかもしれ ないですけど、ほとんどの人は橋の上からポイ ントしか見ないから、統一感とか連続性とか重 要じゃないと答えたんですけど。中野さんの感 覚では、この夜の光のライトアップ、水辺のラ イトアップを今後どうしていったらいいのか、 何かお考えがあればお聞かせください。

中野; ありがとうございます。 ライトアップは 本当にいろいろな話題があります。 有名な天満

橋の裏側にラッキースターっていう明かりがあ るんですよ。スポットライトみたいな明かりが ランダムついたり消えたりしてて。水面のほう を見てると水玉模様みたいに、プカップカッて 光がついたり消えたりするんです。何十とつい てる明かりの中に 1 個だけ星型のシルエットに なるのがあるんです。それが今、めっちゃ暗い んですよ。ほとんどついてなくて。しかも1年 ぐらい前からなんかの雑誌に、この星の下でぴ たっと船が止められるのが一人前の船長の証し ですみたいなことを言ってしまって、えらいこ とになっていて。「星がないですね(汗」とか 言いながら。実際、他の場所も基本的に日没か らライトがつくっていう設定にされてるはずな んですけど、つかない橋があって、急に夜中 11 時ぐらいから、ぱってついたりとかいうのがあ ったり。肝心のサクラの時期に、お花見用のサ クラの下からのライトが切れてたりとかいうの が出てきてて。これは多分、時代を経て老朽化 なんだろうなと思っておりました。

今の私の話で行くと、抑えてたほうがいいっ ていうふうに響いてしまったかもしれないんで すが、僕も割と統一感は必要ないと思っていて。 よく街のこととか建築のこと分かってらっしゃ る方は、船に乗ってると「シーケンスで見る」 みたいなことをおっしゃるんですよ。実際、そ うではあるんですけど。残念ながら一般のお客 様はそんなにずうっと見てないんでポイントで 「あっ見た」でいいんですよね。どっちかとい うとアクセントとして。逆に言うと、ここは陸 を頑張ってる場所だとか。全部、満遍なく光が あって、ここの区間は赤で、ここら辺が青でと かじゃなくていいと思います。結構、僕、大川 沿いのライティングと中之島のライティング、 両方、走るのが面白いなと思っていて。大川沿 いは木とか、陸上側が結構、スポットされてる んですけれど。中之島は結構、橋のライティン グがしっかりしてくるので、多分、特徴に合わ

せた演出がまだまだあるのではと。さっきの道 頓堀にネオンがあったらとか思ったりしちゃう んですけれど。そのほうが特徴づけられていい んじゃないかとよく思います。

あと、いいものは、ちゃんといいように見せておいてほしいなと思います。例えば本町橋のライトアップがなぜないんだっていうのはずうっと、僕は心ひそかにモヤモヤしてるんです。あれ、高速道路の下だから見る人が少ないともしかしたら思ってる?ベータ本町橋もせっかくできたし。本町橋は絶対、ライトアップしなさゃ駄目ですよねっていつも思います。逆に中之島の何でもない桁橋のライトアップをそんなに頑張らなくてもいいんじゃないのっていう気もして、そういう取捨選択はあってもいいんじゃないかと。すいません、偉そうにそんなふうに思ってます。ありがとうございます。

質問者2(チャット);貴重なお話、ありがとうございました。外国人の方がよく知られているメジャーな景観よりも意外と裏の景観、自然だけでなく、コンクリートのビルや高速道路を好んで写真を撮るというお話を受けてなのですが、現在の風潮として川の上にある高速道路を川をふさぐ邪魔者として扱い、地下化することで新たなオープンスペースをつくる、新たな景観をつくるというような計画は日本でも海外でもトレンドとしてあります。しかしこのような景観も開発されてきた都市の一つの歴史であり、このような風景を好きな方もいるのだと知りました。中野さんはどちらがよいと思われますか。

中野;難しい。どっちも好きっていうのは駄目ですよね。どっちも好きなんですけど。でもあえて、私、天邪鬼なのかもしれないですけど、やっぱり高速道路はないほうがいいと思います、基本的には。空が気持ちいいですし、景色が広いほうがいいです。高速道路が上を通ってる川

はカラスとサギとカモぐらいしかいないです。全然、景観が。やっぱり裏は裏だなって思います。それはだから表がちゃんとあるから裏なのであって。もちろんあるものは全部、楽しみたいという態度ではあるんですけれども、今から新しく高速道路が上をふたするっていうのはないよねと思います。ただ、今あるものはどう楽しんでやろうか、これは工夫のしどころだし、楽しみどころじゃないかなというふうに思うので。今あるものをわざわざ変えてまでっていうのはどうなのかなっていうのは正直なところです。

「江戸っ子としては日本橋の上に高速道路があるのは許せねえんだよ」っていう話を、そのフレーズで言われる方の話を聞いたことがあるんですけど。それはもちろんそうだし、それもまたチャンスだと思うんですけどね、新しいものができる。ですけど、無理しなくていいなという気はしておりますが、僕、個人的には高架道路はないほうがいいって思ってます。

篠原(JUDI 会員);篠原と申します。今日はいいお話を聞かせていただき、ありがとうございました。7、8年前に私が主宰していた姫路のセミナーでしゃべっていただいたのですが、その後の新しい動きというか、ご苦労されることなど貴重なお話をお聞きすることができたと思います。

大阪都心部の川は適度な川幅で、水面と陸が近いことが大きな魅力だなと思っていました。しかしそのことで、橋の下がくぐれないとか、大型船が営業しづらいという状況があることがわかりました。また10年ぐらい前に開催された「水辺バル」で「なぜぐるっと回遊するルートがないんだろう?」と思っていたのですが、その事情がよく分かりました。それらは変えることはできないので、一つの魅力と捉えてそれをどう克服していくかということを考えなければ

いけないと感じました。

お聞きしたいのは、雰囲気型と鑑賞型についてです。私自身は圧倒的に鑑賞型でしてね。ゆっくり、ぼおっとしてるっていうのはもったいないやんけと思ってしまう側なんです。それが今日のお話で海外から来られたお客さんが居眠りしていたとか、本を読んでいたというのは、「へえ、そうなんや~」というふうに思ってはました。よくよく考えると、公園であれば私も、雰囲気型でぼおっとしてるようなことであれることをお聞かせください。場でおられることをお聞かせください。ゆ

中野;僕も「鑑賞」か「雰囲気」っていうと鑑賞が7割、雰囲気3割。嫁は逆みたいな感じなんですけれど。おっしゃられたように、全然、水上は遠くて、川の上はレアな経験です。ご年配の方が「いい思い出になりました。もうこれで心置きなく」とかって「いやいや御冗談を」みたいな話をするんですけれど。どうしても特別な経験になる状況は、まだしばらく変えられないのかなというふうに思います。ただ、結構、屋形船さんの利用とかって、多分「雰囲気型」だと思っていて。別に川じゃなくていいよねっていうのは、屋形船の方いらっしゃったらごめんなさい。でもカラオケするし、大阪城の前で止まるんですけど誰も見てないと。

『かもめ』という船は「鑑賞」をしてほしいっていうしつらえにもしてるので、どうしてもそういう部分が表れてくるんですけれど。屋形船の場合に「雰囲気」だけで川の上に私はいるっていうことだけで楽しめという演出の一つになっていると思うんです。ああいう使い方が料金などのコストとか、もっと桟橋が使いやすく

なるとかで、ちょっと喫茶店に行く、ちょっと 居酒屋に行くような感じでもっと使えるように なると、非日常なんだけど、リラックスできる ような状況がつくれたら「雰囲気型」が伸びる。

大正のサンセット 2117 さんが面白かったのは、 桟橋を渡る、岸から出てるというだけで、それ が動かなくても割とそれで異世界になれる。船 の中のしつらえのほうが大事になっていくんで すけれど。船の中の演出が、だからカラオケが あるとか、いろいろだと思うんですけど。そっ ちのほうが伸びるというか、お客さまが想像し やすいのは多分そっちの利用なんだろうなと思 います。屋形船に乗ってる人が「鑑賞」という か。大阪はこんなんあんねや、「大阪城もきれ いやん」っていうほうに気がついて。鑑賞も雰 囲気も両方、楽しめる人が増えるのが一番、面 白いと思います。

今、何だかんだいってコロナで落ち込んだ大型の観光船で最初に動き始めたのも屋形船さんでね。地元の方が楽しみたい、ってなったときにちょっとオープンだし宴会したい、みんなでご飯、食べたい、楽しみたいっていう需要はあって。世間から、歓楽街に行くと人目もあるからあれだけど、船の上に出れば、遮断されてしまえば楽。多分、昔の舟遊びとかもそういう感じなんだろうなと思うんです。密談を悪代官と誰かが船の上でやるみたいな世界。そっちの利用が実は可能性あるのかなって思います。外国人のように昼寝がぜいたくじゃんみたいなスタイルって、なかなか今、一足飛びにそこに行けるかっていうとそれはないのかなっていう気がしてます。

質問者3;W市役所のTです。お話、ありがとうございました。中野さん、楽しみにしていました。僕が担当ではないのですけれど、和歌山市は難波から1時間の所で、和歌山城には外堀があります。今月から、そこで舟運をやろうと

しています。舟運が成立するための経済条件といいますか、『御舟かもめ』さんは実践されながらやっていかれているとは思うんでが、和歌山城の外堀で舟運をやるっていうのはすごい夢があっていい話なのですけど、よくありがちなことですが、行政が需要とかをちゃんと調べずにやり始めて、すぐ終わってしまうようなことにならないのかなあと思っています。この辺りどうお考えでしょうか。

中野:短く答えるにはちょっと荷が重いあれな んですけど。これも手前みそでお恥ずかしいん ですけれど。楽しくてしようがなくてやっちゃ ったっていう人がいないとしんどいと思います。 さっき紹介したサンセットさんの話も、仲間同 士で川の上を楽しもうって動きから始まってま すし。私自身も妻がやってた小さなボートに一 緒に乗ったことで、これは世に出さないともっ たいな過ぎるって思っちゃったっていう。本当 に、川に出会わなければもうちょっと楽だった のにとつくづく思いながら生きてるんですけれ ど。そういう川に呪われた人が現れたほうがい い。すごい手前みそでお恥ずかしいんですが、 実際、テレビとかに取材していただいてるのも、 水都大阪の歴史とか舟運のことを、例えばテレ ビで紹介しようとした場合、分析的に説明する よりも、この人の暮らしとかを見るとそういう のが透けて見えるっていうのが、メディアがや りたがることなんですよね。たまたまうちがよ く取材していただいてる。変わった人が変わっ たことやってる。でもそれをよく見ると大阪な り和歌山のリアルが見えてくるっていうストー リーです。僕も和歌山によくお邪魔してますの で、そういう関わっちゃったら楽しくて出れな くなっちゃったみたいな方がたくさんいらっし ゃると思うんです。そういう人たちが何人かい て、結び付きながら、励まし合いながら、「大 丈夫か?何考えてんねん」っていうふうに励ま

していただいてやってきました。こういうウェットな感じというか、そういう人情話みたいなことしてもしようがないかもしれないんですけれど、残念ながらそういう部分はある。

大阪城の外堀で金の船が走ってますけれど。 伴ピーアールの伴一郎さん。お亡くなりに最近 なってしまって残念なんですけれど。すごく、 この20年前ぐらいの水都の立ち上がりの頃にご 活躍されたんです。僕らもすごく教えてもらっ たんです。そういう、いわゆるキーパーソンみ たいな人が大きいとは思います。うまくそこが リンクすると大丈夫なんじゃないかと思います。 すいません、生意気でごめんなさい。

くまとめ>

高原(JUDI 会員);今日先ほど、会場で受付したら急にまとめをしてください。と頼まれましした。まとめをできる立場ではないですが、私自身は、「川の駅はちけんや」の設計させていただき、事務所も八軒屋浜の向かいの、南天満公園の北側にあります。また、コロナ禍が始まってから、通勤を避けるために同じ川沿いの小さなマンションを借りて居て、今は、毎日24時間大川を見ており、川にたくさんの恩恵をもらっている一人です。

先ほどのお話の中で、「水辺と水上とは違う」という話で、初めは、少しどきっとして聞いていたのですが、実は、よく聞いていると非常に楽しい話で、結局、水辺が賑わうと水上も賑わうのではと勝手にプラスの方向で解釈させていただきました。ただ、そこで水辺の柵の有無しで決壊の違いが出てると言うお話はすごく参考にもなりました。僕は、建築の技術屋なんですが、技術で解決するアイデアも幾つもありそうな気がして、ポジティブに捉えて行ければいいなという風にも思いました。

もう一つ、水辺の家賃が上がるという話があったと思うんですが。JUDIでも「緑の力」とい

うお話もよく出ると思うんですが、これからは 借りるほうは大変ですが、水辺沿いの家賃が上 がること、すなわち「水辺の力」が増して行く ことは良いことだと思います。この水辺の価値 を上げることを中野さんがど真ん中でやっては るんやなというのことを感じました。

先ほど篠原さんや皆さんがうまくまとめて頂いたと思いますんで、私には、全体のまとめということは、うまくできないですが、最後に一つだけ、中野さんの期待をお聞きして、私のまとめにさせていただきたいと思います。

ご存じのように昨年から淀川大堰閘門の工事が始まっており、2025年の万博に向けて淀川の下流と京都方向の上流がつながって、毛馬の閘門を通ると、海と淀川、大川が繋がり、新たな船の回遊ができると思うんですね。2025年には万博もありますので、それに対して、中野さんの期待と抱負を語っていただいて、締めていただいたらどうかな、と思います。どうぞよろしくお願いします。

本日は、本当にありがとうございました。

中野: 万博、2025 年、それから淀川大堰ですね。 よく思うのは、瀬戸内海から京都までがつなが ってるのは、よくいわれることだと思うんです けれど『かもめ』では全然できないので、きっ と。私自身はいいなと思って、乗りたいなって 思いながら眺めてるんだろうと思うんですけれ ども。この前、サンタマリア号が神戸と大阪を 結ぶクルーズの試験をやられました。近所を行 くのに時間をかける。電車で行けば30分で済む ところを 2 時間もかかるっていうのは嫌ってい う価値観が変われば淀川の可能性が出てくるの かなというふうに思っていて。最初にちらっと イギリスの運河の話をしたんですけど。そこも 電車で行けば2時間とかで行けるような所を2、 3 日かけて泊まりながらゆるゆる行くんですけ れども。ユーザーの方、一般の方の時間感覚が

変わるかどうか。京都と大阪、神戸は新快速に 乗ったらこんだけで行けるのに 3 日かけます、 というのが商品として値打ちがあるっていうふ うに思ってもらえる船とかモノが出てくる、そ のきっかけに、淀川大堰閘門がなると面白いと 僕個人的には思っています。

万博会場に船が入っていけるという案が最初 あったように伺ってるんですけれども、今の案 だと会場内に直接アプローチはできないかもし れないんですけれど。そういう、いろいろなつ ながりが、それぞれ、瀬戸内海の水辺の楽しみ 方、神戸の港の楽しみ方、大阪の水都の楽しみ 方がつながってくることを、楽しみにしていま す。(了)